

◎接種を希望される方は、こちらの用紙を読んでから受けましょう。

成人用肺炎球菌予防接種を受ける前に

高梁市

肺炎球菌は、主に気道の分泌物に含まれる細菌で、唾液などを通じて飛沫感染し、気管支炎や肺炎、敗血症などの重い合併症を引き起こすことがあります。肺炎球菌性肺炎のうち、25%～40%は肺炎球菌が原因とされ、高齢者の重篤化が問題となっています。予防接種を受けることで、肺炎の重症化と死亡リスクを軽減させることができます。5年に1度の接種が効果的です。

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が責任を持って記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

●予防接種を受けることができない人

1. 明らかに発熱のある人・・・一般的に、体温が37.5℃を超える場合を指します。
2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
急性の病気で薬を飲む必要のある人は、その後の病気の変化が分からなくなる可能性がありますので、その日は見合わせるのが原則です。
3. 肺炎球菌ワクチンに含まれる成分によってアナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかな人
4. その他、医師が不適切な状態と判断した場合

●予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人

1. 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有することが明らかな人
2. 予防接種で接種後2日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーを疑う症状がみられた人
3. 今までにけいれんを起こしたことがある人
4. 今までに免疫不全の診断がなされている人及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
5. 肺炎球菌ワクチンの成分に対してアレルギーを起こすおそれのある人
6. 今までに肺炎球菌ワクチンを接種されたことのある人
(過去5年以内に肺炎球菌ワクチンを接種されたことのある人は、再接種により注射した部分が硬くなる、痛む、赤くなるなどの症状が強くなる場合があります。)

●他のワクチンとの接種間隔

生ワクチンの接種を受けた方は、27日以上の間隔において、他の不活化ワクチンの接種を受けた方は、6日以上の間隔、新型コロナウイルスワクチンは13日以上の間隔において接種をしてください。ただし、医師が必要と認めた場合には、同時に接種することができます。

●接種後の注意

1. 接種当日は激しい運動や大量の飲酒を避けましょう。
2. 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射したところをこすらないでください。
3. 接種後に発熱したり、接種した部位が腫れたり、赤くなったりすることがありますが、通常、数日中に消失します。
4. 接種後は自らの健康管理に注意し、高熱や体調の変化・その他局所の異常反応に気づいた場合は、ただちに医師の診療を受けてください。